

# ドル/円相場のトレード戦略

ドル/円 週足】



## ■中期展望

本年年初の展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものになる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半では108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り105円台に突入しています。

良好な米経済指標が示すように米国経済は堅調であり、日米の景況感格差や金融政策の方向性などといったファンダメンタルズから考えてさらに一方的にドル安が進むとは考えにくいものの、年初

## ドル/円相場のトレード戦略

からのドル安は積み上がった円売りポジションの調整にはしばらく時間がかかりそうです。

本年はレンジ相場が継続するという見方に変化はないものの、想定レンジを104円～114円程度に下方修正する必要があるようです。

また、昨年から続いてきた三角持合いを下方ブレイクしたことで、これまでのサポートラインが上値抵抗となる可能性は高く、目先は108円水準が戻りのめどとなりそうです。

### ■短期展望

先週は、108円台後半で始まったものの、その後は一本調子のドル安が続き、16日の東京市場では、約1年3ヶ月ぶりの安値である105円54銭まで下落しました。

米国の長期金利上昇傾向が続き、株価下落リスクを意識したリスクオフの流れがその背景にあります。

16日のNY市場ではショートカバーで106円台を回復して週を越えていますが、ドルの上値は重い状況が続いています。

今週も、依然としてドルの上値は重く、戻りは限定的といえそうです。

昨年来、長らく続いた概ね108円～114円レンジを下抜けた影響は大きく、当面108円が強い上値抵抗となることが意識されます。

したがって、今週は週初に下値の堅さを確かめる動きで、その後ショートカバーというイメージで、104円半ばから107円のレンジを想定します。